

伊賀の自然

第16回

『日本最大のタカ クマタカ』



クマタカ：撮影 津野修一

これは日本最大のタカ、クマタカです。トビより大きくて、トビより翼が広く、尾が長いので、一見奴隸のように見え、わかりやすいタカです。イヌワシやオジロワシよりは小さいです。

クマタカの生態を良く表す言葉に、「森の忍者」(山崎亨氏)があります。1日の内、高く跳ぶのは2～3時間で、後は森の中で獲物を通るのを枝に止まって待ち構えていたり、昼寝をしていたりします。また、1度ノウサギやキジなどの大きな獲物を獲ると2～3日休んでいます。ですから、目視だけで見つけようとしたり、生態を調べようとするとかかなり根気が

がいるのです。クマタカの専門家として有名な飯田知彦氏に「丸1日、1週間連続で粘っても見られなかった」と話すと「そんなの当たり前です。観察できるのはこれからでしょう」とのことでした。正に森の忍者なのです。

こんな大型のタカが生息できる環境は、それだけ多くの動物や鳥類が生息し、また、その動物や鳥類を支えられるだけの昆虫類や小動物が生息しているということ、つまり植生が豊かだと言えます。このような自然は守って行きたいものです。伊賀では、赤目の滝から長野峠までの周辺の山々に集中して、数つがいが見られます。

伊賀の山並み

今回紹介するのは、かつてクマタカが生息していた秘密の谷の風景です。



クマタカがいた秘密の谷

武田恵世

歯科医師、歯学博士 伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議 レッドデータブック作成委員会 委員長。環境省希少野生動植物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会 会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」(アットワークス刊)などがある。